

2022年度まちスポ仙台助成金 採択団体の紹介

■ 団体について／団体名 こども・スポーツネットワーク

団体名：こども・スポーツネットワーク

設立年：2020

スタッフ：8名

取り組む課題：

生活困窮というワードが子ども食堂にはつきもの。しかし、イベント型とすることで参加した子供たちへの対価として食材を配食(パントリー)しています。長命ヶ丘地域の居場所創りに取り組みます。バスケット日本代表を目指す子供たちへの練習メゾットで、トップ選手育成と指導者育成。いじめやパワハラを無くす。



■ 申請事業について／子ども食堂

【事業概要】

バスケットボール教室と子ども食堂の活動2本柱！
楽しむことを一緒に活動することで仲間づくり、ネットワーク創りにつなげていく。
地域に自分たちの居場所を作る。

【目的】

地域社会の問題に取り組むだけではなく、仲間づくりや社会のルールをスポーツや子ども食堂などから学ばせる。

【目標】

自分のまわりに仲間や大人がいてくれることに気づかせる。

【手段】

認めて、褒めて、励まし、勇気づける

こども・スポーツネットワークはこどもたちと若者と、障害者と、高齢者の居場所を作ります！

【事業の成果】

3つの活動ができた！

「食」に関する活動

「学」に関する活動

「遊」に関する活動

集まりやすい、集まりたくなる場所を作る。

2022年度まちスポ仙台助成金 採択団体の紹介

■団体について／NPO法人障がい者の暮らしとお金の相談室

団体名：特定非営利活動法人障がい者の暮らしとお金の相談室

設立年：2022年4月14日

スタッフ：1名

取り組む課題：

障がい者の「親なきあと」など将来への不安は、仙台市も含めて全国的な課題となっている。しかし、相談先は限られており、特に仙台市内ではほぼない。

そこで、当相談室は、主に次のような活動を行ってきた。

- 障害者福祉団体および家族会に対する勉強会
- 障がい者および家族に対するライフプラン支援
- 障がい者家族のためのFPサロン

特にサロンでは、男性が仕事の合間をみて参加するなど関心が高まりつつあり、また、主婦などからも働く父、母のためのサロンを希望する声が出てきた。

■申請事業について／子ども食堂

【事業概要】

働いている障がいのある子の親が、ミニ研修と情報交換を交えながら、障がいのある子の将来について少しずつ知識を得るとともに、業種の異なる働く親同士で、障がいのある子の生活について情報交換を行い、将来に向けた自分なりのヒントを得る機会を設ける。

【目的】

当事者家族の「お金」「親なきあと」「8050問題」に対する課題解決能力を高めることを目指す。

【目標】

将来の対する課題解決能力のため、障がいのある子の親による交流・勉強会の定例開催の実現を目標にした。

【手段】

障がいのある子の親にとって関心のあるテーマを設定し、そのテーマの専門家を講師としたミニ研修会を行った。専門家はそのまま残り、専門家を交えた意見交換を行った。

【事業の成果】

障がいのある子の将来に不安を抱えている親が、我が子の将来と向き合うきっかけをつくることができた。特に、互いの子の障がい状況を開示し合い、父として子との向き合い方を共有できた。参加した方々から継続開催を望む声があがったが、目標としていた定例開催までは実現できていない。

■ 聖和学園短期大学ストリートダンス部PEEK-A-BOO!!

団体名

聖和学園短期大学
ストリートダンス部
PEEK-A-BOO!!

スタッフ：17名

取り組む課題：

少子高齢化が進み、世代間交流が減ってきている中でコロナ禍になり、ますます普段生活している地域の方との交流の場が少なくなった。

また、コロナ禍により特に高齢者は行動制限がかかり、運動機能・体力の低下と子どもたちが体を動かす場所が極端に減った。



■ キッズ&シニアダンス交流会（多世代間交流）

【事業概要】

キッズ&シニアダンス交流会（多世代間交流）

【目的】

普段生活している街で多世代間交流を行い、ダンスを通して子どもから高齢者まで幅広い世代で運動を楽しみ、今よりも活気のある暮らしを実現する。

【目標】

ダンスイベントを通して支え合えるまちづくりに貢献する。

【手段】

参加者にワークショップを行い、ダンス発表のできるイベントを企画運営。

【事業の成果】

ダンスを通して、運動することを楽しみ、健康で元気な暮らしをサポートする。

少子高齢化といわれる世の中で、幅広い世代が集まり、交流のできる場が生まれる。

2022年度まちスポ仙台助成金 採択団体の紹介

■ 団体について／NPO法人UBUNTU

団体名：NPO法人UBUNTU

設立年：2018年

スタッフ：9人

取り組む課題：

重症心身障害児・医療的ケア児本人とご家族1人ひとりが自分らしい人生を過ごすことが出来るように、必要とするサービスが提供できるようにすると同時にリアルな経験の積み重ねが出来る環境と連携づくり。



■ 申請事業について／手輪プロジェクト

【事業概要】

昨年度も行い、盲ろう者の生活や聴覚障害者を取り巻く環境の中に課題が多く存在していることが浮き彫りとなった。（聴覚障害児・者の親の困りごと、早期相談の場の不足、手話を学ぶ場の不足や指導者不足、地域の中での情報保障や関係性構築のためのマンパワー不足など）。加え、コロナ禍でも、気軽に繋がれる場や新しい関係性が生まれる場所としてのニーズも高いことから参加者も増えている為、課題の深掘りと繋がりの拡大につながる場づくり。

【目的】

課題の深掘りと繋がりの拡大。
限定されたコミュニティで手話に触れることが出来ないろう者・聴覚障がい者・コダ・聴者が繋がり、言語としての手話に触れる範囲を広げる。

【目標】

一定の参加者数を満たし、求められているニーズを具体的にします。

【手段】

月2回以上開催し、誰もが気軽に参加できる環境にする。
ただ手話で話す場にするのではなく、ろう者について多角的に話す時間や手話力問わずに誰もが参加しやすいレクリエーションを設け、自然にお互いについて話をしたくなる起爆剤を落とす。

【事業の成果】

求められているニーズを当法人の新事業として進めていく。
手話学習者とうろう者が繋がり、ろう者の課題を解決に繋がる体制・人材の創出の場とする。

2022年度まちスポ仙台助成金 採択団体の紹介

■団体について

団体名: 団体名 HApeeMolenZプロジェクト

設立年: 2021年

スタッフ: 館・松本・中澤

取り組む課題:

～MOLENAIをクリエイイト☆失禁予防のための

サテライト型ワークショップHApeeMolenZ

「まなぶ」「うごく」「たのしむ」

を三本柱に

❁ どうしてもれる？失禁予防講話

❁ 失禁予防MOLENZ体操

❁ 自分だけのオリジナル布パッド製作
の独自のプログラムを提供しています！



■申請事業について

【事業概要】

高齢者の3人に1人排せつの不都合が生じ、シモの悩みを抱えている社会問題解決に、失禁予防講座を実施していました。が、コロナ禍において実施困難となり昨年度もほとんどが中止に。オンラインの手法を求め、課題だった実技部分を動画制作することによりオンライン講座が可能ではないか、と今回、挑戦することにしました。

【手段】

講座全体のプログラムの中、実技である失禁予防体操と布製パッド製作の2つにおいては、オンラインでは伝え方が難しい。
今回、この2つを動画撮影という手段で、対面に近い形で指導できると考え実施した。

【目的】

介護・排泄・シモという負のイメージでタブー視される内容でお悩みの方に、講座のオンライン化を可能し、より広範囲の方々に必要な情報と機会を提供したい。

【目標】

失禁予防オンライン講座を実施する。また宮城県内隅々の必要な方に情報と機会を提供できる当方の環境をつくる。

【事業の成果】

前半、実技のとくにオンラインでは伝えることの難しい体操とパッド製作の2点を動画制作し、後半、職員対象のプレ講座からはじまり、七ヶ宿・女川とつなげ、オンライン講座を行うことができました。私たちだけでは実施は難しく、動画制作協力や実施場所の職員の皆様の協力で実現できました。

2022年度まちスポ仙台助成金 採択団体の紹介

■ 団体について／手話サークル竹の子

団体名：手話サークル竹の子

設立年：1974年（昭和49年）

スタッフ：4名

取り組む課題：①地域の手話サークルの存在意義の希薄化・②サークルを運営力の弱体化・③活動資源の不足（ヒト・モノ・カネ）



■ 申請事業について／手話サークル Reborn—ハイブリッド化構想—

【事業概要】

- 運営の立て直し、再構築
（定例会のコンテンツ見直し、slack等のグループウェアの活用やGoogle driveやクラウド会計でのデータ共有、属人化しない運営方法の模索etc）
- ハイブリッド化による場所や所属、家庭事情に合わせた定例会の参加の実現
- 広報の・情報発信の強化
- 会費収入その他の活動資金の拡充

【目的】

時間帯や住む場所、会員の生活状況等に左右されず、広く所属できるサークルとして生まれ変わることを目的としています。

【目標】

会員数 30名以上、会費収入 6万円以上
学生、社会人、聴者・ろう者など様々な多様な会員の獲得

【手段】

ハイブリッド化(オンラインでも参加・所属できる)を進めていくことが現状を打破する鍵であると考え、定例の場所+オンラインでの定例会を実施する
具体的には、ZOOMを活用し、リアル参加会員とオンライン参加会員との双方向の交流を実現する。公式LINEアカウントでオンライン参加希望者とやりとりし、参加希望者にURLを作成して送付する

【事業の成果】

ハイブリッド化によって気軽に参加できるようになり手話サークルに所属する人口が増え、手話で会話ができるネットワークが広がっていくことで、通訳者の育成が進み、聴覚障害者／ろう者へ理解が深まり、情報保障が行き届いていく、といった良い循環が生まれていく

2022年度まちスポ仙台助成金 採択団体の紹介

■団体について／JAZZy MUSIC FAIR実行委員会

団体名: JAZZy MUSIC FAIR実行委員会

設立年: 2021年

スタッフ: 稲垣達也(実行委員長)、島田裕充(発起人)

和田菜水子(事務局長)、島田滋代、

傳井昌子、千葉有美、伊藤強、鹿野えれぞう、

川村マナ、富樫啓弥、金野美香、後藤浩之、

川村英毅

取り組む課題: 日常の中に音楽や芸術のある風景に
遭遇する機会の創出と演奏家・表現者の
交流の場づくり



■申請事業について／JAZZy MUSIC FAIR 2022

【事業概要】

プロ・アマチュア問わず参加できる音楽とダンスや大道芸等のパフォーマンスイベント「JAZZy MUSIC FAIR 2022」の開催による2つの場づくり

- ・開催に関わる演奏者・スタッフ等の「交流の場づくり」
- ・日常空間での「音楽のある場づくり」

【目的】

- 表現活動に関わる人の発表・活躍の場、文化体験できる場を作る
- 様々なジャンルの音楽や表現に日常的に触れる機会を増やし、暮らしの豊かさを生む

【目標】

- 出演者(演奏家・表現者)が長く交流し新たな活動を行うきっかけの場にする
- 本イベント以外の目的で施設を訪れた方の来場

【手段】

音楽イベントの開催

上記に関わる演奏者・表現者の情報発信

【事業の成果】

- ・日頃会うことのないジャンルの出演者間での交流が生まれ、当日限りのコラボ演奏を行なったグループは、本イベントをきっかけにその後も活動を行う新たなグループになった
- ・他活動者と協力し、ギター弦回収などを行うことで、日頃目にすることのない音楽に関わる社会貢献性の高い取り組みを知ってもらえた
- ・買い物などで訪れた一般参加者も多く来場し、音楽のある場を提供できた

2022年度まちスポ仙台助成金 採択団体の紹介

■団体について／Smile Waker 0327

団体名: Smile Waker 0327

設立年: 2022.3.27

スタッフ: 4名

取り組む課題:

- ・地域の方々との交流の場
- ・人との関わりを感じ、学ぶ場
- ・他人を知る場



■申請事業について／子ども食堂

【事業概要】

- ・人との関わり、遊ぶ事の大切さを感じる。
- ・日々の活動や自然体験を通し、遊ぶ場を提供。親が集まれば子も集まる。親子での活動を楽しんでもらう。

【目的】

- ・人との関わりを学び、子や親同士の交流の場
- ・遊びを通してのコミュニケーションの場

【目標】

- ・様々な人との交流を持つ事で人への関心や興味が増え、コミュニケーション能力UPにつなげる。
- ・体験を通し、個性・創造性を伸ばす。

【手段】

- ・地域の方々とのお散歩会や、季節のイベント、地域の方々を繋ぐ行事の企画・運営。
- ・ハロウィンパーティーの開催。
- ・地域を知ろう！「熊谷農園原木しいたけ狩り」こまうち体験の開催。

【事業の成果】

- ・地域の方々との交流の場を設けたことにより関りが増え、信頼感を築き、相手を知り互いの価値観や考えを知る事ができた。
- ・子ども間での積極的な関わり、自ら挑戦する姿も見られ、自身がついたと言える。